

2022(令和4)年度の教育活動等に対する学校評価

2023年 2月13日現在
 学校法人堀口学園
 幼保連携型認定こども園
 昭苑こども園

1. 教育・保育の方針と目標

～未知なる子どものあらゆる可能性の開花をめざして～

昭苑こども園は学校法人堀口学園の創設理念である「神を愛し、自然を愛し、人間を愛する」というキリスト教精神と、「自分が神に愛されるように、あなたもあなたの隣人を愛しなさい」と聖書に記された隣人愛の教えを継承しつつ、モンテッソーリ保育を取り入れ、幼保連携型認定こども園の教育保育要領に則り、乳幼児の達成課題を年齢別・発達段階別に編成した保育プランやカリキュラムを日々の教育・保育の中で実践していきます。

～こんな子どもを育てたい：心あそび、カラダよるこぼ昭苑こども園の子どもたち～

5つのH（Health, Hand, Head, Heart, Harmony）を大切に、歌って踊っていつも元気な子、何にでも興味をもつ一生懸命な子、人の気持ちがわかるやさしい子、個性豊かで楽しい子

2. 2022年度の重点課題（事業計画）

- I 保育 ①認定こども園として質の高い教育保育について再確認する
②定員を満たす園児数を確保する
- II 人事 ③教職員の育成を図る
④教職員の定着を図る
- III 施設 ⑤教育保育の環境を充実させる
- IV 財務 ⑥財政基盤を強化する
- V その他 ⑦施設内の連携を強化し、各部署の充実を図る

3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

評価はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上：合格ライン)、D(50点以上)、E(50点未満：手つかず項目)の6段階とし、D以下の項目は次年度の課題として必ず繰り返すものとする。評価にあたっては教職員の個人的な解釈に左右されないように、園としてのルーブリック（評価の指針）を示し、それを参考に自己評価を実施する。

評価項目	具体的な取組		自己評価			学校関係者評価委員会			
			評価	評価のためのルーブリック（指針）	こども園としての反省と改善策	評価	学校関係者の所見とアドバイス		
I 保育	①認定こども園として質の高い教育保育について再認識する	安心安全の保育で保護者の信頼を高める	S	安心安全の保育について特筆すべき点がある	3.0	・部門を超えて園内での事故やヒヤリハットなどの情報共有する機会を持っている。	A	・情報共有後の各職員が自分のこととして受け止めているのが大切。 ・報道にあった通園バスの置き去りにも留意して欲しい。 【課題】 ・予防と事後の対応とを分けて具体的に安心安全な保育に取り組めるようにすることが大切。	
			A	園内に安心安全の保育が行き届いている	30.3				
			B	事故後の園内対応が改善された	24.2				
			C	新学期研修の内容が各職員に理解された	18.2				
			D	園としての取り組みが不十分	18.2				
			E	園として取り組めていない	6.1				
		一人ひとりを大切にする保育について再考する		S	この取り組みについて特筆すべき点がある	0	・配慮が必要な園児について保育補助教諭、レインボー保育担当教諭にもわかるよう情報共有ファイルが作成された。 【課題】 ・作業優先ではなく子ども優先の保育を心掛ける。 ・日常の保育を大切にしながらの行事の在り方の再検討する。	B	・配慮が必要な子の情報ファイルの作成されよかった。今後ファイルを活用し、共有できるとよい。 ・来年から始まる児童発達支援事業に期待する。 【課題】 ・配慮が必要な子だけでなくクラス一人ひとりへの対応ができるように成育歴、家庭環境の把握が大切。
				A	ほぼ全教職員が再考した	30.3			
				B	約半数以上の教職員が再考した	42.4			
				C	リーダーの教職員は再考した	9.1			
				D	園としての取り組みが不十分	12.1			
				E	園として取り組めていない	6.1			

	保育を伝える取り組みを考え、実行する	B	S	この取り組みについて特筆すべき点がある	0	・定期的に発行している保護者向けカリキュラムで日常の保育の様子を写真を入れて伝えるようにした。 【課題】 ・こども園の職員が園としての何をどう伝えるのかの共通理解を持てるようにする。	B	・インスタ更新の学年差の解消を期待している。 【課題】 ・どんなことをどう伝えたいかをはっきりする。 ・伝えたいことの言語化。園の魅力や職員の熱意をどう伝えるか課題。	
			A	計画をほぼ実施した	12.1				
			B	計画の半分以上を実施した	45.5				
			C	計画の一部を実行した	27.3				
			D	園としての取り組みが不十分	9.1				
			E	園として取り組めていない	6.1				
	②定員を満たす園児数を確保する	途中入園児：0歳児（9名）、1歳児（6名）の確保	A	S	0・1歳児の確保について特筆すべき点がある	9.1	・0歳児は12月で定員を満たすことができた。 ・1歳児は4月新年度当初より定員を満たしスタートすることが出来た。 【課題】 ・一時預かり保育の在り方（現在クラス吸収型）の体制を見直しをしていきたい。	A	・少子化ながらも酒々井町には若い世代の方が入ってきているので、積極的なPR活動が望まれる。
				A	0・1歳児共に定員を満たした	36.4			
				B	計画通り取り組んだが定員を満たせなかった	24.2			
				C	取り組みの一部しか実行できなかった	15.2			
				D	0・1歳児確保の取り組みが不十分	12.1			
				E	園として取り組めていない	3.0			
	途中入園児：満3歳の確保（6名）	A	S	満3歳の確保について特筆すべき点がある	9.1	・11月に定員6名の園児を満たすことが出来た。また、その後も入園希望があった。 【課題】 ・新年度当初から途中入園を踏まえて事前の職員の確保が必要。 ・満3歳の保育環境の確保を考えていく。	S	・親子プレ保育〜びよびよ教室〜で園の行事や様子がわかるようになってよかった。	
			A	満3歳を6名確保できた	51.5				
			B	計画通り取り組んだが6名確保できなかった	27.3				
			C	取り組みの一部しか実行できなかった	9.1				
			D	満3歳確保の取り組みが不十分	0				
			E	園として取り組めていない	3.0				
次年度の新入園児の確保（40名）	C	S	新入園児の確保について特筆すべき点がある	3.0	・1月現在20名の新入園児の受付をした。（目標達成には△20名 定員充足には△80名） 【課題】 ・待機児童の多い富里市の1号幼児の確保できるようにする。 ・近隣他市町への園児募集活動を増やしていく。	C	・少子化だが積極的なPR活動が望まれる。 ・次年度からの児童発達支援、個別支援の体制を新設準備している点は特筆すべきである。 【課題】 ・町内にとどまらず転入者の向けに広域PR方法を検討する。		
		A	計画通り実施し、次年度の定員を確保できた	3.0					
		B	計画通りに全てを実施した	39.4					
		C	計画は立てたが一部しか実施できなかった	39.4					
		D	新入園児獲得の取り組みが不十分	6.1					
		E	園として取り組めていない	9.1					
II. 人事	③教職員の育成を図る	C	S	価値観の共有で特筆すべき点がある	3.0	・ハンドブックを活用し行事前後に目的を確認し、計画や反省のポイントを明確化することが出来た。 【課題】 ・保育担当やバス乗車などで会議や読み合わせに参加できない職員への情報共有にあり方の検討していきたい。	C	・情報共有のデータ化やタブレットの活用も研修に最適。 ・対人支援や人の人生に大きく関わる幼、保育をベースとして学ぶ手段としてeラーニングなどネット活用が進むことに期待。いろいろな方法を駆使して欲しい。	
			A	研修を通して価値観の共有が進んだ	15.2				
			B	研修を通して学びがあり、現場に活かされた	30.3				
			C	研修を通して学びがあった	33.3				
			D	研修の内容では不十分だった	9.1				
			E	園として取り組めていない	9.1				
	事故防止・危機管理マニュアルの周知徹底を図る	B	S	マニュアルの研修で特筆すべき点がある	0	・事故が起こった時、振り返りでみんなが意見を出せるようになった。 【課題】 ・マニュアル活用計画の作成し、全員の周知を目指したい。 ・職員配置は満たしている中、人手不足意識の改善	B	・みんなで意見が出せるようになったことは高評価。 ・事故やトラブルが起こることを前提に、職員の協力体制を強化する必要がある。	
			A	マニュアルの内容を園職員がほぼ全員周知している	21.2				
			B	マニュアルの内容を園職員の半数以上が周知している	36.4				
			C	マニュアルの内容を園のリーダーが周知している	15.2				
			D	マニュアルの研修は実施したが不十分である	15.2				
			E	園として取り組めていない	12.1				
	状況に応じた新型コロナウイルス感染症の感染対策を考え、徹底する	A	S	消毒方法の研修後、特筆すべき点がある	6.1	・夏まつり、運動会、クリスマス祝会などの行事が保護者を招いて予定通りできた。 ・継続的対策、保護者の協力でクラスターを出さずに済	A	・感染は仕方ないと思う。発生後の感染拡大防止の為、事実の開示、迅速な対応の方に重点をおいて欲しい。	
			A	感染予防の消毒方法についてほぼ全員が周知している	57.6				
			B	感染予防の消毒方法について教職員の半数以上が周知している	27.3				

			C	感染予防の消毒方法についてリーダーが周知している	0	んでいる。		【課題】 ・保育参観や運動会の親子競技など保護者が関わられる機会を頂けると嬉しい。
			D	感染予防の消毒方法について研修は実施したが不十分である	0			
			E	園として取り組めていない	9.1			
④教職員の定着を図る	保育室を離れたノーコンタクトタイムの休憩時間を各職員に確保する	B	S	休憩にかかる改善について特筆すべきことがある	3.0	日々、主幹保育教諭からの言葉掛けで浸透しつつある。	【課題】 ・他の職員に託すことが苦手で休憩の取れない職員の意識改善や人手不足意識の改善	B ・ノーコンタクトタイムの必要性を伝え環境を整えていくとよい。 ・チームで動くことの意識をもてるようにすることで安心できるのではない。
			A	ノーコンタクトの休憩が一般的になった	15.2			
			B	ノーコンタクトの休憩が取りやすくなった	39.4			
			C	休憩は取れているが、ノーコンタクトが少ない	12.1			
			D	休憩場所の創設がなく、工夫も不十分	21.2			
			E	園として取り組めていない	9.1			
	二法人合同働きやすさ検討委員会で作成される「新入職員向けの不安解消ガイドブック」を活用し、職員の定着を図る	E	S	不安解消の改善対策で特筆すべきことがある	0	【課題】 ・二法人合同働きやすさ検討委員会での話し合いは継続的に続けているが、ガイドブックの作成が長引き、未発行の為次年度に持ち越し。	E ・風通しの良い職場であって欲しい。マナー化せず様々な視点で見直し働きやすさを考えていく必要がある。 ・二法人の合同の取り組みに期待する。	
			A	改善策により、非常に働きやすくなった	6.1			
			B	改善策により、働きやすくなった	39.4			
			C	改善策により、やや働きやすくなった	24.2			
			D	改善策は講じているが効果が感じられない	3.0			
			E	園として取り組めていない	27.3			
	園行事を平日開催に変更し、残業は月10時間(1日30分)程度にする。	C	S	残業にかかる改善で特筆すべきことがある	0	・行事が平日になったため、土曜出勤日は昨年度より減少している。	C ・行事の見直し、職員の負担軽減も今後大切などところかもしれない。 ・必要なもの、残したいものを見極めて欲しい。 ・保護者行事のお手伝い、一日先生体験を復活させてはどうか。	
			A	残業は計画的に月10時間(1日30分)程度以内になった	12.1			
			B	定時で帰る取り組み、超過勤務申請制度が定着した	33.3	【課題】 ・平日開催での幼児行事の準備、在り方を再検討し職員の負担軽減する。		
			C	サービス残業と超過勤務の区別がなされた	36.4	・保育の質を維持した上で、業務を省力化できるよう検討する。		
			D	サービス残業を減らす取り組みがなされた	6.1			
			E	残業に対する取り組みが園としてできていない	12.1			
有休消化率を60%にする(3カ年計画で70%)	B	S	有休消化率の改善で特筆すべきことがある	0	・毎月シフト作成時計画的にとれるよう言葉がけしている。園全体としての平均消化率60%を超えている。	A ・計画的な付与も必要な時代。職員同士が互いの消化率を把握しながら休みことは良いことであるという風土が定着するように。 ・休む日の情報共有など言葉で伝えることなど業務引継ぎ方法の見直し。		
		A	有休消化率は全員60%以上になっている	18.2				
		B	有休消化率は平均60%以上になっている	51.5	【課題】 ・週2日や週3日などパート勤務職員や、消化率の低い職員へは個別に言葉掛けをし対応していく。			
		C	有休消化率は変わらないが、休みやすくなった	21.2				
		D	有休消化率は変わらず、休みも取りにくい	6.1				
		E	園として取り組めていない	3.0				
乳児棟の正職員の割合を30%以上に上げる(5カ年計画で50%)	C	S	乳児正職員の構成の改善で特筆すべきことがある	0	・今年度の達成率は20%にとどまる。	C ・正職員、パートに関係なく責任ある保育者の育成が求められる。 ・正職員と看護師の採用を希望する。 ・人数的にも手厚く配置し責任を十分に取れる保育体制を期待する。		
		A	乳児棟正職員の割合が30%以上になった	0				
		B	乳児棟正職員の割合が前年度より増えた	0	【課題】 ・長時間パートで勤務している方の正職員への移行を相談。			
		C	乳児棟正職員は変わらないが、長時間勤務の職員が増えた。	75.8	・こども園内でも乳児を専門とした正職員の効果的な募集など検討していく。			
		D	乳児棟正職員の割合が前年度以下である。	6.1				
		E	園として取り組めていない	18.2				
Ⅲ施設	⑤教育保育の環境を充実させる	C	S	2号館の整理で特筆すべきことがある	0	・2号館遊戯室後方に教材をまとめ、整理が進んでいる。	C ・安全面からも整理を進めて欲しい。 ・目標を決めてコツコツと努力されている。	
			A	2号館全体として整理された	15.2			
			B	2号館の半分以上が整理された	30.3	【課題】 ・年間を通しての教材整理が計画的にできるようにす		
			C	2号館の一部が整理された	36.4			
			D	2号館の一部が整理されたが不十分	6.1			

			園として取り組めていない	12.1	る。		
		施設内の老朽化している 遊具・備品・教材の修繕を 計画的に図る	S 修繕計画について特筆すべきことがある	0	・幼児棟上段の砂場の入れ替えや老朽化した登り棒、太鼓橋の撤去が完了している。 【課題】 ・子どもたちが廃材などを利用し自由に発想展開し作って遊べるおもちゃの工夫。 ・既製玩具で遊ばせる保育を見直す。	B ・事故の防止につながるので定期的な遊具の点検をしっかりと欲しい。 ・毎月の点検に加えて業者の点検など二重、三重の点検を検討してはどうか。	
	A 修繕（計画）は全体的に行き届いている		21.2				
	B 修繕は部分的だが計画的に行き届いている		36.4				
	C 修繕は部分的だが危険箇所は取り除かれつつある		27.3				
	園として取り組めていない		6.1				
			園として取り組めていない	9.1			
		子どもの主体性を育む保 育について考え、環境構成 の再考や手作り教材の充 実に取り組む（園庭上段の 改善を含む）	S 教材充実について特筆すべきことがある	0	【課題】 ・乳幼児共に主体性を育む保育について全職員で学びを深められるよう研鑽していく。	C ・園庭上段の改善に地域の方の力を活用するとよい。 ・スキルを持った住民の方の地域ボランティアで何か手伝うことはできると思う。	
	A 教材は全体的にとっても充実している		0				
	B 教材は全体的に充実している		0				
	C 教材は部分的に充実している		37.5				
	園として取り組めていない		21.9				
			園として取り組めていない	3.1			
IV 財務	⑥財政基盤を強化 する	経費の節約を図る	S 経費の節約について特筆すべきことがある	0	・光熱費や水道代の値上がりに伴う部分的な節約がなされた。 【課題】 ・園の服務規程にもあるように職員一人一人がコスト意識の向上、節約に心掛ける。	B ・具体的に気をつけるところを共通認識出来るとよい。 ・LED化、ペーパーレス化を図るとよい。	
			A 経費の節約は全体的によく図られている	18.2			
			B 経費の節約は部分的によく図られている	48.5			
			C 経費の節約は一部ではあるが図られている	24.2			
			園として取り組めていない	0			
			園として取り組めていない	9.1			
		定員を満たし、修繕や改築 のための計画的な積立を 継続する	S 定員を超過し、収入5%の積立ができた	0	・12月時点で172名在籍。ほぼ定員を満たすことが出来た。乳児は1月以降に入園を予定している園児がいる。 ・11月補正予算では収支の見通しが明るい。	B ・PR活動の見直しを図るとよい ・子育て支援の期間は貴重。地域、住民、町ぐるみで応援、参画できる仕組みが望まれる。	
	A 計画通りの取り組みで定員を満たせた		6.1				
	B 計画通りの取り組みができた		42.4				
	C 計画の取り組みの一部ができた		36.4				
			園として取り組めていない	6.1			
			園として取り組めていない	9.1			
V その他	⑦施設内の連携を 強化し、各部署及び 法人全体の充実を 図る	昭苑こども園の総合力を 生かし、しょうえんこども こそだてルームの地域子 育て支援をさらに充実さ せ、利用者や入園者の増加 を図る。	S 利用者入園者増加で特筆すべきことがある	3.0	・プレ保育やルームでの親子製作などイベントの見直しで満3歳の入園者が増えた。 【課題】 ・酒々井町のあいあいルームとは違う昭苑こども園独自のサービスの創設、更なる利用者の拡大を図る。	S ・評判が入園者増加につながっている。 ・インスタでのイベントは楽しそう。 【課題】 ・他部署との活動報告に共有や連携。 ・地域における昭苑こども園の役割を職員が理解する。	
			A 利用者や入園者が前年度より増加した	15.2			
			B 利用者が前年度より増加した	9.1			
			C 利用者増加の取り組みができた	63.6			
			園として取り組めていない	9.1			
				園として取り組めていない	0		
		今後の学童保育のあり方 を模索し、昭苑学童クラ ブの児童数を1～3年生で 各20名、4～6年生で20 名を確保する	S 在籍児童数増加で特筆すべきことがある	6.1	・2023年度進入児童は現在11名。進級児童48名計59名でのスタートを予定している。 【課題】 ・昭苑学童ならではの活動内容の充実を検討。 ・児童募集活動を見直しを検討。	C ・小学校から距離があるが園児、児童のいる家庭には助かる。 ・イベント多く工夫している。 ・地域にいる元教員の活力を利用するとよい。 【課題】 ・他部署との活動報告に共有や連携。 ・地域における昭苑こども園の役割を職員が理解する	
	A 次年度の在籍数が60名を超える（予定）		12.1				
	B 新入児童が20名以上、確保できた		18.2				
	C 新入児童獲得に取り組んだ		45.5				
園として取り組めていない	6.1						
			園として取り組めていない	12.1			

●自己評価取りまとめ担当者：

園長 堀口義也

主幹保育教諭（幼児） 土屋木綿子

主幹保育教諭（乳児） 喜多山文子

●学校関係者評価委員：

幼児組保護者代表 松橋栞（2022年度連絡委員会長・幼児組保護者代表）

乳児組保護者代表 別府美緒（2022年度連絡委員・乳児組保護者代表）

学校法人堀口学園評議員（卒園児）日笠智一

地域住民 溝口享（東酒々井1・3丁目自治会会長）

地域住民 和田菜穂子（酒々井町民生委員）

青少年健全育成関係団体代表 小早稲美穂（卒園児、元連絡委員会会長）

接続校の教職員 戸谷友紀（小学校教諭）

その他の学校関係者 朝日未夏（小学校教諭）、

松田裕児（成田市社会福祉協議会）

岸部徳子（姉妹法人・社会福祉法人愛の園福祉会 緑が丘こひつじ保育園 園長）